

市長 4 期目のスタートにあたって

このたびの亀山市長選挙におきまして、市民の皆様の負託をいただき、再選の栄を賜りました。引き続き公の重責を担わせていただくこととなり、身の引き締まる思いであるとともに、政策公約の具現化に最善を尽くす覚悟であります。

さて、現在、私たちは「新型コロナウイルス感染症」との闘いの中にいます。本市は、一連の総合対策「緊急政策パッケージ」を展開してまいりましたが、この先においても総力を挙げ、この厳しい局面を乗り越えてまいります。同時に、コロナ終息後の「ニューノーマル（新常态）」を見据えた、しなやかな地域社会への転換、真の健康都市への深化をめざしてまいります。

また、少子高齢化の進展を背景に、人生 100 年時代に備えた「安心の共生社会の構築」、「若者の定住促進」や「魅力ある市街地再生」を急ぐとともに、DX(デジタル変革)による超スマート社会への対応にも万全を期してまいりたいと考えます。

さらに、新市施行から 16 年を経て、市民力で地域力が輝くまちづくりが進んでまいりましたが、「地域予算制度」のバージョンアップや基金運用の見直し、「かめやま文化年&歴史的風致維持向上計画」などの新展開により、亀山の強みである「地域力と文化力」に磨きをかけてまいります。

一方、次なる 4 年は、四半世紀以上にわたり積み重ねてきた「リニア中央新幹線・市内停車駅」の誘致が、新たな段階へと入ります。これを確実なものとするべく「オール亀山」の英知を結集、多様な産業・雇用の創出とあわせ、次なる活力と未来へ向けた着実な取り組みを進めてまいります。

これらの政策展開により、「第 2 次・亀山市総合計画/グリーンプラン 2025」が掲げる将来都市像『緑の健都かめやま』の実現をめざすとともに、今後の国と地方財政の厳しさが指摘されるなかにあって、引き続き、強い意志をもって行財政改革を進めていきます。

最後に、私は昨夜、30 年前の市議会初当選直後、初質問の議事録を読み返しました。思えば遠くに来たものだと感じますが、理想とするまちは未だその途上にあります。今一度、私は、あの頃の初心に戻って、この公の責務を全うしてまいりたいと存じます。

今後とも倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。

令和 3 年 2 月 8 日

亀山市長 櫻井義之